



DBKだより

第27号
2022年11月30日
ドン・ボスコ基金



ウクライナから避難し、ポーランド・クラクフ管区のサレジオ神学院で過ごす子どもたち

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

(マタイによる福音書5章9節)

トピック 【特集 ウクライナ人道支援】スロバキア：ウクライナ難民の子ども・家族への支援活動／ポーランド：サレジオ神学院でのウクライナ難民支援活動／ポーランド：サレジオ会ルブジャ支部共同体でのウクライナ難民ケア／ポーランド：サレジアン・シスターズの報告

ハイチ：学校増設プロジェクト／モンゴル：ゾーンモドでの学童保育とユースセンター／南スーダン：自然災害と部族紛争が続く中で／ブラジル：カリタス学園から感謝の言葉／ポリビア：サンタクルス・オガール・ファティマ乳児院から／エチオピア：アディス・アベバからの報告／ベトナム：ベンカト支部共同体、ホアアン支部共同体からの寄付依頼／日本：ハッピーハウスからの手紙／日本：ドン・ボスコ学習支援グループからありがとう！

恩人の皆さまへ

「コロナ禍」と言われる状況になってから間もなく3年が経とうとしております。まだまだ収束の兆しが見えず、恩人の皆さまに於かれましても不安とこれまで以上にご苦勞を抱えておられるのではないかと心配しております。皆さま方が、ご健勝でいらっしやることを願い祈っております。

コロナ禍に加えて今年もまた悲しい出来事が次々に生じております。世界の至る所で人間同士の醜い争いや自然災害によってたくさんの人びとが苦しんでいるのです。中でも、一人の決断によって始まったロシアのウクライナ侵攻という悲しい出来事は、すでに何百万何十万という人の命を奪い、さらに何億何十億という人びとがその影響を受け、特に小さき者・貧しき者たちがより多くの苦しみを受けています。なんと愚かなおぞましい現実でしょうか。

ただ、こうした中であっても、私たちは黙っては居られません。その小さき者・貧しき者たちを助ける必要があります。幸い、恩人の皆さま方の助けにより、また世界中で同じような心ある方々の助けによって、微力ではありますが、サレジオ家族もウクライナ国内をはじめ周辺諸国のポーランド、スロバキア等を拠点にして必需品を届けたり難民を受け入れたり、特に子どもたちの教育や種々の支援に力を注いでおります。

恩人の皆さま方に於かれましても日々いろんな困難さの中にあるかと思いますが、可能な限り今後ともご理解とご支援をいただけましたら幸いに存じます。

最後になりますが、皆さまのうえに主イエスの祝福と豊かなお恵みがありますようお祈りいたしております。どうぞ希望のうちにお元気で過ごしてください。

2022年11月

DBK [ドン・ボスコ基金] 代表 濱口 秀昭
(サレジオ会日本管区長)

特集

ウクライナ人道支援

スロバキア・ポーランド

スロバキア
ウクライナ難民の
子ども・家族への
支援活動

ウクライナから避難し、スロバキアのサレジオ会施設で過ごす子どもたち



若い子どもをもつ母親が子どもと一緒に生活し、コミュニティ活動ができる宿泊施設

サレジオ会 スロバキア管区

戦争が始まって以来、ウクライナのリヴィウにあるポクロフ孤児院から、私たちのサレジオ会センターに45人のウクライナ人の少年を受け入れました。6歳から11歳の少年たちはホストファミリーのもとで、11歳から17歳の少年たちはサレジオ会センターに滞在しました。

彼らのうち29人が7月末にリヴィウに戻り、12人はスロバキアに残って勉強を続けています。6か月の滞在中、さまざまな活動や旅行に参加しました。

●人道支援

紛争が始まって以来、私たちは食料や医療・衛生用品など計180トンの人道支援物資を12台のトラックでウクライナに運びました。

スロバキア全土およびウクライナに向けてEU各地から届く物資を保管するために、プレショフに約700㎡の倉庫を借りました。これらの支援物資を全国に、とくに物資が届きにくい場所であるハリコフ、マリウポリ、オデーサ、ビンニツァ、ドニプロ、リシチャンスク、セヴェロドネツクなどに届けました。

迅速に配達できる2台の大型バンを購入し、支援物資が届かなかった場所に行けるようになりました。復路は空車を利用して、家族そろって安全な場所に移送しました。バンは常に使用されているため、すでに何度も修理しています。うち1台は銃撃され、次の新しい任務のために修理中です。

プレショフにある私たちの倉庫は、ウクライナ人道支援のため、サレジオ会だけでなく、オーストリア、イタリア、スイス、ドイツの支援団体と物流の協力をしながら、すでに何度も使用しています。私たちは、経済的支援に加えて、さまざまな組織がこのような支援に具体的に参加できるようにしています。

●ウクライナの子どもたちのための
レクリエーション活動

現在、首都ブラチスラヴァから40kmのガブチコヴォに約350人の子どもたちがいます。このガブチコヴォにある州の施設で、子どもや若者が自由な時間を有意義に過ごせるように、スポーツ・体操・工作などのレクリエーション活動を週3回開催しています。夏休みの間もこうした活動のおかげで、工作、遊びを通しての教育は、言葉の壁を越え、絆、友情、そして学校生活への準備を提供しています。

現在、これらの活動は、300人の子どもたちのため

のサマーセンターに変わりました。彼らは、トレーニングを受けたスロバキア人と外国人のボランティアから指導を受けています。

●ボランティアのトレーニング

ウクライナの子どもたちのためにこれらの活動を行うには、ボランティアの存在が不可欠です。私たちはすべてのボランティアにふさわしいボランティアプログラムを提供しています。トレーニングだけでなく、ボランティア活動中のサポート、家庭教師、心理カウンセリング、宿泊施設なども提供されます。

最初の講習会は5月30日にミレティチョヴァで開催されました。トレーニングは、ボランティアの倫理規定、心的外傷後ストレス障害（PTSD）を経験している子どもたちと共に過ごすための方法・注意事項、危機介入、デリケートな話題を伝える方法、心理的サポート、

セルフケア、ルール、ボランティアのコミットメント（継続意欲・責任）などの内容をカバーしています。チームの文化、コーディネーター、仲間のボランティア、権利と義務、多言語での作業、ゲームの準備方法、状況のモデル化、群衆を引き付ける方法なども含まれます。

若者は各分野の専門家と出会うことができます。心理学、アニメーション、もちろん霊的分野ではサレジオ会の神父が担っています。これらのトレーニングコースは、ウクライナ難民を支援する他の団体にも提供されています。

●宿泊施設

ミハロフツェの中心部では、約150家族を受け入れ、寝室、ダイニングルーム、サンタリー（仮設シャワーを購入）が整った宿泊施設を提供しました。長期滞在



ウクライナの子どもたちのためのレクリエーション活動



ウクライナ難民を受け入れ、宿泊だけでなく、様々な生活支援を行っている



活動にはボランティアの存在が不可欠。トレーニングだけでなく、様々なサポート、心理カウンセリング、宿泊施設なども提供される



施設では学びの機会も充実している

するだけでなく、仕事を見つけ、学校に通うこともできます。これもボランティアが交代で必要な支援を行っているおかげです。

サレジオ会センターに加えて、宿泊先提供フォームがウェブ上に掲載されており、ウェブ上で、さらに200人分の短期および長期の宿泊施設を紹介することができました。

●サレジオ会と連携するウクライナ難民宿泊施設

トルナヴァのあるサレジオ会員は、3月2日以来、ウクライナからの難民を受け入れ続け、宿泊施設オーナーの協力により、現在550人以上が暮らしています。ボランティアがスロバキア語クラスを提供し、130人のウクライナ人が学んでいます。会議室は、小学生の子どもたちのためのスペースと、オンライン授業用のコンピュータールームに改装されました。50人のウクライナの子どもたちのためのサマーセンターがあり、40人以上がここで長期宿泊しています。主に障害や複雑な背景をもつ人びとです。

●ウクライナ人のためのスロバキア語クラス

ウクライナ人の成人、子ども、若者向けの5つのスロバキア語クラスは約80人が受講し、5人のボランティア教師が教えています。9月からは、新しいクラスを開講。約130人のウクライナ難民を受け入れているトルナヴァの施設でも毎日スロバキア語を教えています。

●0～3歳児向けプレイルーム

ミレティチョヴァのプレイルームは、体系的かつ長期的な支援を通じて、子どもをもつ母親が成長し、社会に溶け込むための安全な環境を作りたいと考えています。私たちのセンターでは、コミュニティ活動（スロバキア語のクラス、個別指導、ゲーム、レクリエーション活動など）だけでなく、カウンセリングや心理的サポートも提供しています。3～6歳のウクライナの子どもを対象とする子どもセンターが、カリタスと協力して、礼拝堂の敷地内に開設され、20人の子どもたちが利用しています。

●経済的支援

現在までに受け取った621,796ユーロの寄付を最大限に活用しながら、継続的に活動しています（7月までに446,206ユーロがすでに活用されました）。

これらすべてが可能になったのは、サレジオ家族の多くのメンバーと、心を開いて惜しみなく助けてくださった皆様のおかげです。ありがとうございます！

ポーランド サレジオ神学院での ウクライナ難民 支援活動



神学院のオラトリオ室で過ごす子どもたち



宿泊施設に滞在する人びとのために食事を提供

サレジオ会 ポーランド・クラクフ管区

クラクフのサレジオ神学院では、最初の4人が一時滞在を許可された2月26日以来、難民支援に携わってきました。2日後、31人を受け入れ、宿泊施設と食事を提供しました。3月21日までの総人数は951人でした。プロジェクトの実施開始以来、受け入れたウクライナ人の数は次のとおりです。3月28日～4月30日は1日平均50人、5月は平均41人、6月は平均38人、



ウクライナ難民を支援する様々な物資



滞在するゲストは、様々な活動や行事に招かれている

7月は平均38人。数字が示すように、開戦以来、状況は日々変化しています。8月の現時点で、神学院には34人の難民がいます。子ども16人、大人18人（女性16人、男性2人）です。現在、5人が仕事を見つけました。そのうち2人は神学院で、1人はサレジオ宣教ボランティアサービスの建物で働いています。

神学院に住んでいる子どもたちの何人かはポーランドの学校に通学し、ポーランドの同級生と一緒に最後の学年を終えました。他の何人かは、ウクライナの学校が提供するオンライン授業を受講しました。

神学院のサレジオ会員は、ウクライナからのゲストのために、ポーランド語のクラスを子ども向けと大人向けの2つのグループで開講し、いずれも週2回行いました。また、カウンセラーが必要なときには、いつでもサポートしてくれます。子どもたちはコンピューター室とオラトリオームを利用します。私たちは彼らのために旅行やキャンプを企画しました。ゲストは、子どもも大人も、神学院や共同体で行われるさまざまな活動や行事に招かれています。

プロジェクト期間中、施設に住む大勢の人びとに料理を提供するため、私たちは2人の料理人を雇いました。

●目的の達成

実施されたプロジェクトによって、戦争から遠く離れた安全な避難所を必要としている多くの人びとに、それを提供することができました。皆様からの経済的支援のおかげで、家を出て国を逃れなければならなかったウクライナの人びとは、ポーランドで安全な場所を見つけました。プロジェクトからの資金は、主に難民の宿泊施設と食料に4か月以上にわたって活用されました。このおかげで、神学院に住む人びとは、ポーランドで生活を一から築き上げ、子どもは学校に通えるようになり、仕事を見つけ、独立したアパートを探ることができるようになりました。良い雰囲気と便利な居住環境、そしてサレジオ会が組織した活動とカウンセラーの支援のおかげで、難民の方々は故郷で目撃したトラウマや悲劇的な経験についてケアを受けることができます。サレジオ会員の助けを数日だけ利用した人もいれば、ここで何週間も過ごした人もいました。全員が物質的・精神的な援助を必要としていましたが、このプロジェクトのおかげで、それを受け取ることができました。実施されたプロジェクトの受益者総数は約600人です。

●当初の課題との変更点

プロジェクトが終了するまで、すべてのプロジェクト資金が使用されたわけではありません。初期予算から15,384.82ユーロが残りました。これは、過去2か月間、サレジオ神学院の建物に滞在する難民の数が当初の計画（50人）よりも少なかったためです（平均38人）。そのため、ポーランド・クラクフ管区は、プロジェクトの延長が可能かどうかを詳細に検討したいと考えています。神学院ではまだ34人の難民を受け入れており、この数は秋冬になると増加する可能性があります。

●プロジェクト終了後の継続とフォローアップ

ウクライナでは新たに戦禍が拡大しており、滞在場所を探す新たな難民の波が来る可能性が高いため、クラクフのサレジオ神学院共同体は難民を受け入れ続ける予定です。部分的に破壊されたアパートや家屋の中には、夏の間は我慢できても、冬の間には生活には適していないものもあります。今後は、就職活動、ポーランド語教室の継続、子どものデイケアなど、難民の自立支援事業を展開していく予定です。

ポーランド サレジオ会 ルブジャ支部共同体 でのウクライナ難民ケア



ウクライナから避難してきた人びとをケア



サレジオ会 ポーランド・ピウ管区ルブジャ支部共同体
ジョージ・メナンパランピル神父

ルブジャ支部共同体では、ウクライナから避難した15人の方々を3か月間ケアしています。小さなプロジェクトで、財務上の影響は大きくはありませんが、それでも皆様からのサポートを必要としています。

ポーランド サレジアン・シスターズ の報告



サレジアン・シスターズ ローマ総本部

サレジアン・シスターズの視察担当評議員であるシスター・リディア・ストルツェルチクは、マードレ（総長）と総評議会を代表してポーランドに赴き、ポーランドの2つの管区の姉妹たちに耳を傾け、共に歩み、ウクライナから避難してくる人びとを迎え入れました。その報告を以下のように語っています。

サレジアン・シスターズは、まず、東ヨーロッパ・ジョージア準管区（EEG）の姉妹たちと連絡を取り合い、毎日の生活のために必要な物質的および経済的援助をもたらしました。それから、国境での支援活動です。ポーランドのプセメシュには私たちの修道院はないので、最初の日々から、他の修道会のシスターたちと協力して働く一人のウクライナ人のサレジアン・シスターズがいます。他の国境地帯にはポーランドのサレジアン・シスターズが赴き、2週間交代で、食糧、医薬品、毛布、清潔な衣服、下着類など基本的な必需品や、建物内で寝たり、体を洗ったりできる便宜を図り、次の目的地にたどり着けるようにしています。ここでもシスターたちは、他の組織、カリタス、ボランティア、社会福祉、警察、国境警備隊など多くの協力関係を築いています。

サレジアン・シスターズの修道院の半分以上が、避難してくる人びとの受け入れをしてくれました。彼らはしばしばショックを受けており、温かく安全な場所、やさしさを必要としているので、最初のニーズに応えた後で、私たちは心理的および教育的分野での助けについて考え始めました。大人のためには傾聴グループ



「出向いてゆく教会」をめざして



サレジアン・シスターズの多くの修道院が避難してくる人びとを受け入れている



「野戦病院」になることで、希望のしるしとなることをめざす

を作り、子どもたちは学校、オラトリオ、その他のレクリエーション活動に導き入れ、正常な状態を再び築き上げ、彼らが少しでも平静さを見つけることができるよう助けをしています。もう一つの必要性は、彼らがすぐに祈る場所を見つけることができるように、近くの正教会またはギリシャ・カトリックの教会を探します。

この非常に忙しい数週間の後、私たちは長期的に

物事を考え始めています。人びとを受け入れるということは、他に住む場所がない人びとのためのプロジェクトを立ち上げ、彼らが仕事を見つけるのを助け、医療を保証し、子どもたちや若者たちを学校に就学させ、平和教育の道をつくり出すことを意味します。

子どもたちが境遇に順応してゆくのを助けるために、ポーランド語を教えることに加えて、サレジアン・シスターズと他の教育者たちも、彼らのより近くにいて情報を供給できるように、ウクライナ語を学ぶことが必要となってきました。

VIDES ポーランドは、奉仕のために献身する若者のためのプロジェクトの実施を始めています。若者は本当に協力的で連帯性があります。彼らの多くは、ほんの少しの時間でも手助けに駆けつけてきます。

この状況は、教皇フランシスコが言うように、「出向いてゆく教会」と「野戦病院」になることを私たちにしています。私たちが経験しているこの悲劇にもかかわらず、多くの光があり、私たちは、難民、ボランティア、そして私たちのサレジアン・シスターズにとっても希望のしるしになりたいのです。

ハイチ 学校増設プロジェクト ハイチの子どもたちの 未来のために



新しい教室に生徒たちを迎え入れる



完成した新しい教室

サレジオン・シスターズ ハイチ管区
シスター・ピエール・ミレーヌ・フェリックス

ドン・ボスコ基金の皆様、ハイチのサレジオン・シスターズ開発プロジェクトチームは、ハイチにあるピンケ市の聖心女子学院に5つの教室の建設のためにご寄付いただいたことに感謝いたします。

当初、ハイチのピンケにあるサレジオン・シスターズ聖心女子学院では、中等学校に入学した生徒たちは、中等教育を続けるために、北部のキャップハイティエンのサレジオン・シスターズの修道院に行くことを余儀なくされていました。そのため、彼らは家族から引き離され、大きな苦しみを味わうことになりました。その後、子どもたちが自分たちの住む町で安心して勉強を続けられるように、足りない教室を追加するよう

学校に要請し、このピンケの5つの教室を建設するプロジェクトが始まりました。

このようなプロジェクトを実現する必要性と緊急性を理解し、親身になって考えてくださった多くの方の賛同で、プロジェクトは実現しました。ハイチのシスターたちは、質の高い教育を提供することで貧困層を支援するという使命が、決して自分たちだけではなく、皆様と一緒に実現できたことに感謝しています。

主が皆様に豊かな祝福をくださいますように、常に祈り続けることをお約束します。

モンゴル ゾーンモドでの 学童保育と ユースセンター



学童保育で子どもたちと(右端がシスター小島華子)

サレジオン・シスターズ宣教女
シスター小島華子

毎朝マイナス14度の寒いモンゴルからご挨拶です！
お元気でいらっしゃいますか？ 皆様のおかげで今年の8月で宣教生活13年目を迎えました。そして、先日モンゴルにいらした方を通して皆様からの大切な援助金80万円を受け取りました。本当にありがとうございます！ 毎日のミサの中で一人一人のために感謝の祈りをささげています。

昨年から委ねられた教区の小学校での使命は山あり谷ありのうちに1年が終わり、9月から新学年度が始まりました。しかし長い間の識別の結果、司教様の判断で今年度をもって小学校を閉鎖し、来年度からは学童保育と並行してユースセンターを開始することになりま



学校の先生たち

した。学童保育は今年度から開始し、現在は27人の子どもたちが在籍しています。人びとの生活水準を考慮して月謝を安くし、朝早くから夜、保護者が迎えに来るまでしっかりとケアをしています。最善の環境を整えるためには、まだ多くの物が不足しています。しかし、私はいつも神様が必ず考えてくださると確信しています。なぜならミッションは私たちのものではなく神様のもの、私たちは神様の道具として使命を果たすだけです。私たちに必要なことを、私たちが願うよりも先にご存じでいらっしゃる優しい御父にすべてを委ねながら、毎日を精一杯、最後の吐息まで子どもたちのために捧げて生きたいと思えます。

南スーダン 自然災害と 部族紛争が続く中で



4月にサレジオ会のクレメンテ神父様が南スーダンを訪問した際、日本のサレジオ家族からの寄付で定期的な食糧支援ができていたことを報告。神父様も食糧配給を少し手伝っていただきました。



子どもセンターの給食。この日は黄色い豆とご飯を食べています。



月に1度、診療所のない村へ診療に

イエスのカリタス修道女会宣教女 シスター下崎優子

支援者の皆様、寛大なご支援ありがとうございます。世界中が、まだロシア対ウクライナの紛争により、経済に大きな影響を及ぼしています。南スーダンは直接の影響はないものの、近隣諸国、ヨーロッパ、アラブの国からの輸入に頼っているために、物価の高騰はここでも深刻な問題となっています。それに加え、まだ国内も安定していないこと、自然災害などのこともあり、現状は大変です。幸いにコロナの感染はほぼない状態でしたが、通常のマラリア、腸チフス、肝炎等の病気は毎年、多くの死者を出しています。最近、エボラがコンゴ国でおさまったと思ったら、ウガンダ国

に発生しました。南スーダンは、スーダン、コンゴ、中央アフリカ、ウガンダ、ケニア、エチオピアと数か国に囲まれた地理なので、人びとの往来とともに病気も入ってくる確率は高く、そのために物資の輸入規制などが起こります。そうすると物が入ってこなくなるために、また物価が高くなるという状況に見舞われます。

半年以上が乾季となる南スーダンは、数ヶ月の雨季に作物を作り、保存するという習慣がありますが、雨の影響とナイル川の河川工事などで、2年ほど前から洪水が起こる地域が出はじめ、村全部が水につき、水に伴い蛇にかまれて、死亡者が出るという事態にもなっています。さらに新たな問題として、牛を中心とした生活の部族が多いため、洪水から逃れ他の部族の乾いた地域に移動し、その草や作物を牛たちが食べるためにその地域との部族紛争が絶えない状態にもあります。

私たちサレジオ家族の活動するグンボ地域では、まだ数千人の国内難民がいますが、UNHCR国連難民高等弁務官事務所の支援により、地元への帰還をした人たちもいます。ドン・ボスコ難民キャンプからは、20名ほどですが帰還することができました。

飛行機搭乗のためには、健康診断書が必要で、国内難民100名ほどをカリタス診療所で診察し、証明書を発行し、診療所のスタッフと共に、旅行の無事と生活再建のために祈り、送り出しました。

現状維持の中で、私たちは皆様からの支援金でこの村の最も困っている人、難民のために食料、医療、子どもセンターで支援をしています。カリタス・ドン・ボスコ診療所では難民の人たちには無償で診察、薬の提供をしています。今回は、物価の高騰で他の修道会が行っている養護施設からも、食糧支援のお願いが来て、そちらにも、とうもろこしの粉、豆、砂糖、油も提供しました。皆を救うことはできませんが、私たちができる範囲で、できる支援を継続し行なっています。どこからも、まだ収入を得ることができない中で、この使徒職をできるのは、皆様の支援金のおかげです。本当に心から感謝いたします。

2022年7月に教皇フランシスコが南スーダンを訪問予定でしたが、足の治療のあとで、旅行するのにドクターストップがかかり延期となりました。これで3度目の延期ですが、来年の予定変更にかトリック教会は教皇の訪問を希望しつつラウダート・シを生きるようつとめています。

ブラジル カリタス学園から 感謝の言葉



スポーツコートの修復とメンテナンスが必要



カリタス学園のオラトリオ活動に集まる地域の子どもたち

イエスのカリタス修道女会
カリタス学園校長
シスター ベルナデッタ中川

ドン・ボスコ基金支援の皆様へ

この度も、私どものカリタス学園の使命を果たしてゆくために、ドン・ボスコ基金を通じて、御寄付を頂きましたことを心から感謝いたします。

当学園も多くの人びとの支援に支えられて、2023年には創立25周年を迎えます。この喜びに感謝しつつ、教育に恵まれていない地域の人びとに、より良い教育実習と場所を提供できることを願い、日々励んでいます。

パンデミックにも立ち向かいながら、ドン・ボスコの教育精神を促進するために、子どもや青少年の教育に

有効な、音楽、スポーツ（サッカー、バスケットボール、卓球など）、週末にはオラトリオ活動を地域の子どもたちに提供しています。これらの教育活動をよりよく促進するために、スポーツコートの修復と、使い古されたスポーツ用具を新たに作る予定です。青少年らが自由に活動でき、事故を防ぐために半年毎にメンテナンスするようにしています。そのための予算が不足している現状に、皆様の支援が大きな助けになっています。

今でも教職員や従業員の給料支払いを補うために、イベントを計画して進めています。

ドン・ボスコに倣って、私たちの使命を遂行するために人々の協力をお願いしながら、扶助者聖母マリアに信頼して使命を果たしてゆきたいと願っています。

ボリビア サンタクルス オガール・ファティマ 乳児院から



対面式での授業が始まりました

イエスのカリタス修道女会
ボリビア リマの聖女ローザ準管区
オガール・ファティマ乳児院施設長
シスター ベネディクタ立石

自然豊かなボリビア多民族国、暑い春を迎えたサンタクルスからご挨拶申し上げます。サンタクルスの春は、強風とLluvia de Oro（金の雨の意）、Tajibo（紫、白、黄色の花で、木材として重宝されている）やToborochi（「南米ざくら」の異名を持つ）などの花々が見事です。

現在、イエスのカリタス修道女会運営のオガール・



乳児院の子どもと

ファティマ乳児院には、0歳から6歳までの、やんちゃで、お茶目な子どもたち、約50名が暮らしています。遺児、虐待、親の犯罪、迷子、育児放棄など様々なケースで入所した子どもたちを、シスターたちと協働者で、健やかな成長を見守り、育てています。



野菜の苗を植えて、神様の祝福、大地の恵み、労働の喜びを分かち合う

4歳、5歳児の15名は、目の前にあるサレジオ会経営の幼稚園に通園しています。この子どももドン・ボスコの小さな子どもたちです。この2年間、コロナウイルス感染症のため、完全にオンライン授業でしたが、今年4月より、対面式の授業に参加できるようになり、安堵しています。乳児院の保育士だけの「母の手」では、行き届かない所が多く、全体的な評価として、情緒や言動が不安定で、読み書きの遅れが指摘されます。コロナウイルス感染症による行動規制で、ボランティアや外部との接触や野外活動も少なかった事もその原因の一つかもしれません。

ところで、ボリビアでも少しずつ社会としても、エコロジーへの関心が出てきましたが、イエスのカリタス修道女会でも「ともに暮らす家のため」への関心と動きが高まっています。私たち、オガール・ファティマ乳児院家族も、子どもたちとエコロジーを学び、何かを始めよう!と一歩を踏み出しました。そこで、4、5歳の子どもたちと職員で、菜園にチャレンジしようと決め、

春を迎える前6月ごろ、畑作りから始めました。痩せた土壌の改善、おいしい新緑が大好きな蟻との闘い、種や苗の購入など結構出費が重なりましたが、グループに分かれての水やり、バナナの皮肥料作り、野菜の成長の観察、雑草取りを経て、この春、レタスや青ネギを収穫し、給食で味わい、神様の祝福、大地の恵み、労働の喜びを分かち合うことができました。

これからも、現在と未来の希望である子どもたち、そして、周りの人びとと共にリサイクルの実施や自然に触れて神様の創造の業を賛美する活動に取り組んでいこうと考えています。頂いた寄付金をラウダート・シ基金として、「共通の家」のためのプロジェクトや教育に活用させていただきたいと思ひます。ご支援に心より、深く感謝いたします。

皆様の上に、神様の豊かな祝福とご保護がいつもありますように。

エチオピア アディス・アベバからの 報告



ティグライ北西部の食糧配給所で

サレジオ会 AET 準管区長
ハイレマリアム・メディン神父

親愛なる DBK 支援者の皆様

皆様の継続的な支援に心から感謝し、毎日のパンを欠く人びとに対する皆様の善を主が祝福して下さることを確信しています。

エチオピアが干ばつやコロナウイルス、その他の問題の影響から回復しようとしている中、2020年11月、エチオピア連邦政府とティグライ地方との間で本格的

な戦争が始まりました。長期化する戦争は、アムハラ州やアファール州の一部にも及んでいます。兵士や、兵士に直に殺された民間人など、どれだけの人が死んだのか、その数はいまだにわかりません。21世紀にもかかわらず、このような状況が続いていることは本当に悲しいことであり、大きな懸念です。

私たちはサレジオ会の準管区 (AET) として、エチオピアに14の支部、エリトリアに3つの支部を持っています。そのうち4つの支部 (メケレ、アディグラト、アドワ、シール) はティグライ州にあります。ティグライ州には約700万人の住民がおり、今まさに食糧支援を必要としているのです。

連邦政府がティグライを離れた時点 (2021年6月) から、道路、電話、インターネット、銀行、電気が遮断されていますので、ティグライの共同体と通常の連絡がまったくできません。物資は不足しており、もう1年以上、すべてのサービスが完全に止まっています。ですから富める者、貧しい者ということではなく、全ての人々が等しく人道的援助を必要としているのです。人道支援団体の窓口は限られてはいますが、私たちはサレジオ会共同体や、共同体のまわりの人びとに人道的支援を届けようとしています。

世界食糧計画 (WFP) は、他のパートナーとの協力のもと、食糧および非食料品の人道支援を主導しています。私たちサレジオ会員が WFP に働きかけたところ、必要な役所の法的問題を解決してくれ、食料と非食料品のメケレまでの輸送を無料で引き受けてくれました。私たちはこの方法で2回分の援助を行い、3回目の援助の準備が整いました。メケレに到着した後の内部配送には、燃料、積み下ろしのための現金、輸送などの課題があります。しかし、現地の人びとや



ティグライ北西部シェラロの町の妊婦に WFP (世界食糧計画) がスーパーシリアルを届ける

善意ある組織（WFP、CRS、教区事務所、マザー・テレサのシスターたち、ウルスラ会のシスターたちなど）の協力のおかげで、解決策を見出すことができます。

皆様のご支援がなければ、このようなことは実現しませんでした。また、私たちが求めるものをすべてサポートしてくれるWFPにも大変感謝しています。

援助物資を目的地まで届けるために、燃料や車両を手助けしてくれるCRS（カトリック救援サービス）などに感謝します。

本格的な戦争はティグライ地方で起きていますが、その他の地域でもさまざまな紛争が起きています。また、東アフリカ全域で発生している干ばつは、農家にも影響を及ぼしています。また、国内のインフレ率は非常に高く、生活必需品は日々値上げされています。世界情勢も見逃せませんが、エチオピアが地球規模の課題に立ち向かうには、まず国内の問題を解決し、平和で穏やかな状態にする必要があります。現在、外的（グローバル）な問題と内的な問題の両方が私たちに影響を及ぼしています。世界各地から支援の要請が来ていることは承知しています。しかし、ティグライからは、食料不足で人が死に始めたという情報が入ってきています。薬がなくて死ぬのはすでに当たり前になっていますが、餓死者が出ているという情報は本当に穏やかではありません。食糧不足が問題なのではなく、物価の問題や、ティグライの場合、必要な人に手が届かないということが問題だと考えています。

私たちが受け取った資金は、困っている人たちに届くよう迅速に行動することを約束します。

この問題が平和的に解決されるための霊的な支援（神に平和を祈る）にも感謝し、そして犠牲者が少なくなるよう物質的な支援もお願いします。

ベトナム ベンカト支部共同体 ホアアン支部共同体 からの寄付依頼



サレジオ会 ベトナム管区ベンカト支部共同体
ヨセフ・グエン・ドゥク・タム神父

サレジオ会日本管区の管区長様およびDBKを支援



ベンカト共同体の寄宿生

してくださる皆様、私たちは、ベトナムのベンカト支部共同体のサレジオ会員です。

春山ミカエルラップ神父様を通して、皆様が貧しい若い学生たちを助けていると聞いています。それで、私たちの貧しい学生の何人かをも助けることを是非ともお願いしたいのです。彼らは寄宿生で、ここベンカト支部共同体で私たちと一緒に暮らしています。現在、生徒数は8名で、彼らはすべて、孤児や、貧困状態、崩壊した家族の出身者です。

私たちの目的は、彼らに信仰と学校教育の両方の教育を提供し、彼らが安定した誇れる仕事を得て、より良い未来を追求し、良いキリスト者と誠実な社会人になるのを助けることです。

私たちが神とドン・ボスコの意志を実現することができるよう、皆様のご支援を心からお願いします。

食費、文房具（ノート、教科書など）、衣類と身の回り品、学校までの毎日のバス料金、健康管理で、この8人の学生に必要な年間費用は5,000米ドルと見積もっています。どうぞよろしく願いいたします。

サレジオ会 ベトナム管区ホアアン支部共同体
ゴ・スアン・ティン神父

私はゴ・スアン・ティン神父です。サレジオ会司祭で、ベトナム北管区委任地区に属する、扶助者聖母のホアアン支部共同体の院長です。

日本管区の助けがなければ、貧しい若者のためのこのプロジェクトを実行することは非常に困難です。このプロジェクトは新しく、まだ、多くの人が、関心をもっていません。私たちのプロジェクトの目的・援助の対

象者・年齢は前述のベンカト支部共同体と同じで、人数は15人です。ベトナム北管区委任地区は新しいので、優先して開発すべきプロジェクトが他にもたくさんあります。ホアアン支部共同体は、多くが貧しい人びとが暮らす田舎に位置しているため、貧しい若者への支援をお願いすることは困難です。一方で、地方自治体の無理解による、いくつかの困難があります。

しかし、私たちは、ドン・ボスコの教育法がカトリックの人にとっても、そうでない人にとっても、ベトナム北部の若者のために有意義であるということ、地方自治体が理解してくれることを常に望んでいます。

これらの困難により、私たちが持っている資金ではこのプロジェクトを運営するのに十分ではありません。そのため、2022年から2023年のこの期間の援助を日本管区の管区長と皆様をお願いしたいのです。

日本・東京 ハッピーハウスからの 手紙



新しい場所でスタートしたハッピーハウス

サレジアン・シスターズ
VIDES JAPAN

ドン・ボスコ基金支援の皆様へ

コロナ禍の中で、2020年3月から現在に至るまで、VIDES JAPAN活動の「ハッピーハウス活動」に継続支援をしていただき、心から感謝申し上げます。2020年度はすべてのVIDES活動は中止にいたしました。2021年度からは、コロナ禍の感染状況と感染



家庭支援（食材支援）の準備

予防に注意しながら、毎月1回活動を実施いたしました。

また、家庭には「食材支援（お米・調味料等）」を配達し、現在もこの支援は継続しておりますが、ハッピーハウスの家族から大変喜ばれております。

2021年10月からは、毎週火曜日に「ハッピーハウス活動」が開始され、現在は東京都北区赤羽西にあります「サロンチイーノ」喫茶店をお借りして実施しております。毎週火曜日はメンバーたちが久しぶりに出会い、夕食にはシスター望月の「愛のこもる食事」を頂き、次回の活動を楽しみにしながら帰宅に着きます。これからも「ボスコ基金支援」の皆様を支えられながら、「ハッピーハウス活動」を通して、心の渇きをいやし、人と人との出会いから「生きるパワー」を頂き、毎日を元気に過ごしていきたいと思っております。

これからもご支援よろしく願い申し上げます!!!

日本・浜松 ドン・ボスコ学習支援 グループから ありがとう!



カトリック浜松教会
サレジアン・シスターズ
シスター大西いく子

ドン・ボスコ基金を通してご支援くださっている恩人の皆様、カトリック浜松教会の「ドン・ボスコ学習支援グループ」から心からの感謝を申し上げます。

5年前から始まった週3日の「ドン・ボスコ学習支援」



ロロピアナ神父校長先生の誕生日のお祝いで

は主に日系外国籍の子どもたちの学習支援（学校の宿題の援助）をしております。

このグループに参加している子どもたちの保護者は生活に余裕のない家庭が多く、コロナ禍の影響で職を失い、現金収入が減り、生活が貧しくなっています。学校から何も食わずに学習支援に来る子どももいるため、学習面と生活面での援助も行っています。学校が休みの時には給食がないので、長いお休みの前にはお米などの食品を援助し、この時には卒業生などの貧困家庭にも提供しています。

浜松教会は公共交通機関の便がなく、子どもが歩いて教会の学習支援に来ることができません。そこで車を利用するのですが、ここ最近のガソリン代の高騰から、燃料費節約のために学習支援への参加を躊躇する保護者が増えていきます。

子どもたちの人数は少ないですが、子どもたちはロロピアナ神父校長先生が大好きで、勉強前の遊びを一緒にし、短い有意義なお話を聞き、その中の単語を日本語とスペイン語で学んでいます。夏休みには神父様の案内で近くの公園を散歩しました。子どもたちは喜んで通って来ています。子どもたちはおしゃべりできますが、日本語がよくわかっていないので、授業についていけないのです。だから友達との関係もスムーズにできないように思います。子どもに、先生が言っていることがわかるのと聞くと、半分くらいと答えました。この現状を考えた時、参加する子どもたちの人数は少なくともこの子どもたちのために、必要な援助と安心できる居場所を提供していきたいと学習支援を続けています。

今後も、子どもたちが明るい未来に向かって成長できるように祈りつつ、努めてまいります。

ドン・ボスコ基金 2021年度収支報告書

(2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位：円)

収入の部			支出の部		
寄付希望先	金額	備考	寄付先	金額	備考
ハッピーハウス	168,493		ハッピーハウス (FMA)	200,000	
Kiitos	22,000		Kiitos	100,000	
日本国内	371,495		ドン・ボスコ オラトリオ (SDB)	200,000	
浜松学習支援	4,444		浜松教会学習支援	200,000	
			東京サレジオ学園 (SDB)	200,000	
			星美ホーム (FMA)	300,000	
			多文化共生 センター	200,000	
ポリビア(倉橋神父)	1,058,222		ポリビア (SDB)	1,100,000	*3
ベトナム			ベトナム (SDB)	600,000	*3
東ティモール	1,264,039		東ティモール(SDB)	1,500,000	*3
エチオピア	104,482		エチオピア (SDB)	1,000,000	*3
ウクライナ	1,130,160		ウクライナ (SDB)	1,500,000	*3
			ソロモン諸島(SDB)	300,000	*3
			スリランカ (SDB)	200,000	*3
モンゴル	323,973		モンゴル (FMA)	800,000	*4
ハイチ	1,256,842		ハイチ (FMA)	500,000	*4
南スーダン	269,223		南スーダン (SCG)	800,000	*5
ペルー	2,000		ペルー・ポリビア (SCG)	200,000	*5
			ブラジル (SCG)	500,000	*5
インド	348,665	*1			
シリア	32,100	*2			
任意	4,556,163				
寄付金 小計	10,912,301		寄付送金 小計	10,400,000	
<寄付外収入>			<支援外支出>		
銀行口座利息	17		寄付金送金手数料	39,660	
			DBK だより発行分	113,566	
			事務関係経費	27,406	
			諸経費 小計	180,632	
前年度繰越金	1,050,604		次年度繰越金	1,382,290	
収入の部 合計	11,962,922		支出の部 合計	11,962,922	

*収入の部は2021年4月1日から2022年3月31日までに受け入れた寄付金の金額の総計となっています。

**支出の部は2022年3月31日までの受入資金を分配して送金したものです。

略号の説明 SDB: サレジオ会、FMA: サレジオシスターズ、SCG: イエスのカリタス会 () のものは関係修道会

- ※1 インドへの寄付は寄付先選定に時間を要したため、2022年度に寄付いたします。
- ※2 シリアへの寄付は一昨年度、今年度集まった寄付以上に送金しておりますので、送金を見合わせました。寄付受入は終了となっています。
- ※3 サレジオ会関係の国際送金はサレジオ会日本管区本部経由で送金いたしました。
- ※4 サレジオ・シスターズ関係の国際送金はサレジオ・シスターズ日本管区本部経由で送金いたしました。
- ※5 イエスのカリタス会関係の国際送金はイエスのカリタス会日本管区本部経由で送金いたしました。

印のない寄付先はドン・ボスコ基金口座から直接送金しております。

DBK [ドン・ボスコ基金] に ご支援くださった皆様

2021年10月1日～2022年7月31日の間に、DBK[ドン・ボスコ基金] に募金してくださった方々です。

匿名の方も含めまして、恩人の皆様からの寛大なご支援とお祈りに、心より感謝申し上げます。

【個人】(敬称略)

Ronnie Quintarelli、阿部 正子、阿部 泰久、甘利 理香、新井 顯保、荒木 光子、飯島 美智子、五十嵐 迪雄、井口 瑞江、池尾 久美、石井 真紀子、石崎 真理子、石塚 達子、石突 真理子、伊豆田 正之、一原 聖子、伊藤 紀子、伊藤 富士夫、伊藤 正高、今村 信之、岩田 卓三、植木 次郎、臼井 芳晴、内河 純子、内山 千夏子、梅田 正、梅田 博子、江口 政江、榎戸 敬三、榎本 世志子、遠藤 クララ、大石 雅子、大川 千寿、大熊 理津子、大谷 和功、大西 たづ、大村 哲夫、岡 ひとみ、岡田 尚彦・久美子、岡本 健吾・昌子、小野 哲子、小山田 匡弘、鍛冶田八彦、勝井 豊、加藤 恭平、加藤 慎次郎、加藤 典江、加藤 律子、金見 思美、河島 保子、川尻 達也、岸本 典子、岸本 隼人、北村 圭一、木下 敏孝・久美子、木村 彰男、木村 真智子、金原 洋、藏本 麻里、栗木 幸子、黒崎 雅浩、毛原 日出世、郷古 達也、小椋 久光、小島 毅、近藤 幸恵、坂本 秀子、坂本 順子、佐々木 恵子、佐藤 朝子、佐藤 香代子、佐藤 貴美子、佐藤 雅代、佐野 淑子、猿川 禮子、澤 美由紀、椎原 伊三男・園美、品川 満紀、柴崎 憲子、島本 メリエ、下里 亘、正司 尚子、白水 泰子、杉山 信彦、住本 恵子、妹尾 ゆき、曾根 美香、高木 信子、高島 晶子、高橋 廣見、竹村 牧子、田中 博、多比羅 史子、田村 陽子、月岡 紀子、辻村 寛行、鶴見 典子、徳武 美由紀、友村 忠司、鳥居 孝一、永井 美奈子、中尾 友和、中西 敏子、中野 隆正、中村 ツイ、成田 暁彦、西 秀敏、西ヶ谷 裕子、西田 浩朗、西出 治彦、二村 文子、野口 幸子、野田 朋花、橋本 世紀子、花岡 暉、濱口 俊光、浜崎 廣光、日向 育子、平井 隆史、平川 厚子、平田 久子、平松 ケイ子、広川 澄子、福地 直義、藤田 満智子、藤永 悦子、藤村 栄三郎、舟木 栄子、古木 裕行、本田 正明、前田 安雄、松田 宏紀、松田 律子、松原 久美子、丸山 純一、水谷 義晴・とし子、宮崎 智子、宮澤 正・香織、宮脇 章朗、宮脇 和子、三好 明子、森田 和代、諸井 眞利、八木下 泰博、柳川 智美、柳沢 智子、山田 史郎、山田 美恵、山本 朋弥、山本 秀子、山家 信雄、湯口 靖弘、横山 多津枝、吉川 敦、吉田 邦利、吉田 紀子、吉武 尚子、吉野 篤、和田 恵美子、和田 位

【団体】(敬称略)

あぐら会 足立 光生、大分明星幼稚園、学校法人サレジオ学院、カトリック小林教会、カトリック鷺沼教会古着プロジェクト、カトリック調布教会、カトリック調布教会聖堂清掃ボランティアグループ、カトリック浜松教会、カトリック東仙台教会海外協力会、カトリック碑文谷教会、カトリック由比ガ浜教会婦人会、カリタス学園同窓会、カリタス女子中学高等学校、カルメル会修道院、コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会、サレジオン・シスターズ大村修道院、サレジオン・シスターズ世田谷修道院、サレジオン・シスターズマンマ・マルゲリータ修道院、サレジオン・シスターズ大分修道院、サレジオン・シスターズ管区本部、サレジオン・シスターズ聖ヨセフ修道院、サレジオン・シスターズ扶助者聖マリア修道院、サレジオン・シスターズ別府修道院、サレジオン・シスターズ目黒修道院、サレジオン・シスターズ山中修道院、サレジオ学院幼稚園、サレジオ杉並修道院、静岡サレジオ小学校、城星学園小学校、城星学園中学校・高等学校、星美学園ウニオーネ本部、星美学園短期大学同窓会ウニオーネ短大、星美学園幼稚園、カトリック調布教会聖歌隊、調布星美学園、ドン・ボスコ社店頭募金、長崎星美幼稚園、浜松サレジオ修道院、別府サレジオ修道院、ボーイスカウト浜松14団、ボスコワールド 代表 松田 康子、ボランティア愛好会、宮崎サレジオ修道院、目黒サレジオ幼稚園、目黒星美学園小学校、目黒星美学園中学高等学校

【匿名の方】 71件

DBK [ドン・ボスコ基金] へのご支援とお祈りを、
今後ともよろしくお願いいたします。

事務局からのお知らせ

- ・DBK[ドン・ボスコ基金] 事務局へのご連絡は、原則としてメールにてお願い致します(スタッフは常駐しておりません)。メールアドレスは dbkinfo@salesians.jp です。
- ・ゆうちょ銀行の払込用紙以外からご寄付くださる場合は、メールにて「氏名」「住所」「寄付希望先」「寄付者氏名の公表または匿名希望」「その他」をご連絡いただけますと幸いです。ご連絡がない場合は「任意(事務局一任)」「寄付者リストに記載」で受付させていただきます。ご連絡いただいたデータは御礼状および「DBKだより」の発送に使用させていただきます。
- ・昨今の郵便事情から、以前よりも郵便物の到着に日数がかかりますことをご了承ください。

DBKだより 第27号

2022年11月30日

発行人 濱口 秀昭

発行所 ドン・ボスコ基金

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12

サレジオ会日本管区本部内

Tel:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190

Email: dbkinfo@salesians.jp

https://salesio.jp/about/dbk



DBK [ドン・ボスコ基金] は、特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する、サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。



DBKウェブサイト
「DBKだより」
バックナンバーも
ご覧いただけます

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替口座名: ドン・ボスコ基金
口座番号: 00190-5-292253

*寄付者氏名の非公表をご希望の方は、
払込用紙に「匿名希望」(のチェックマーク)を
ご記入ください。

●他の金融機関からお振込みの場合
金融機関: ゆうちょ銀行 店名: 〇一九 (ゼロイチキユウ)
預金種類: 当座預金 口座番号: 0292253



恩人の皆様と支援先の方々のためにミサを
ささげるDBKスタッフ